

こどもウイークリー企画案

愛教大生が発表 ネットゲーム連携など



中日こどもウイークリーの販売企画案を発表する学生たち＝刈谷市の愛知教育大で

愛知教育大(刈谷市)の学生たちが中日こどもウイークリーの販売促進のために考えた企画案を発表する会が二十二日、同大であった。

課題解決の企画力や提案力を養う「デザイン実技」の授業の一環。富山祥瑞教授(左)の指導で毎年、八丁みそや切り干し大根など題材を代えて実施している。

今回は教員を目指す二年生三十一人が七班に分かれ、昨年七月にリニューアルされた中日こどもウイークリーについて調査・宣伝

やキャンペーンのアイデアを発表した。

一カ月分の新聞を気軽にプレゼントできるギフトカードの新設や、紙面で学んだ内容をネットゲームと連携させて子どもが楽しみながら読む案などが出た。

発表した中畑ひなのさん(左)は「読者を子どもだけに限定せず、大人だったらいろいろな視点で考えた」と話した。発表を聞いた中日新聞販売局の曾我昇司さん(右)は「斬新なアイデアが多かった」と感心していた。(岩下理花)